

## 師走になりました

早いものでもう12月になりました。3年生はいよいよ共通テストまでカウントダウンですね。共通テストに関する話は、受験票到着後に、3年生版で案内します。

さて、1年生は文理選択、2年生は科目選択が確定し、それぞれ11月の模試の結果が出るころですね。共通テスト目前の3年生も含め、12月は何かを決めるよりも、一年を振り返って現在位置を確認したり、決めたことに向かって積み重ねをしていく時期だと思います。師ならずともゆっくり走っていきましょう。

そんな時期ですので、今回は具体的な情報提供よりも、進路のお便りらしく、進学の際にその先のみなさんの進路の見通しについて、ヒントになりそうなことを書いてみます。以下、あくまでも概略かつ、偏っていますので、そのあたりはご容赦ください。

## 就職・仕事について考えてみる

本校を卒業するほとんどの人は進学します。そして、進学先を卒業した後には、何らかの形で就職をすることになるでしょう。もちろん、就職しない、という生き方もあります。例えば起業して成功すれば、就職活動は必要ないですね?とはいえ、起業自体も職に就くという意味では就職ではあります。では、そもそも職に就いて賃金をもらう、ということはどういうことでしょうか?

就職をして賃金をもらうということは、きちんと考えてみると実はかなり難しい話です。個人商店を経営したり、個人で農家を営んだりということであれば、**仕入れと経費と売り上げ**の関係を考えることで、収入・賃金というものについてある程度はイメージが沸くでしょう。でも、**大企業(や公務員)に就職して賃金をもらう**、ということはどういうことか、イメージは沸きますか?(ちなみに、企業の経営者が社員の賃金をどうやって決めるのか、ということについての理論的研究は、研究テーマとして、とても面白いものなので、興味がある人は大学で勉強するといいたと思います)

ここではあえて賃金とか業種という観点ではなく、一般的な企業を例にして、**企業の構造と職種**という観点から、就職して働くということについて考えてみます。

一般的な企業は基本的に**分業制**なので、いくつかの部署・職種に分かれます。もちろん、それぞれの企業によって、役割分担や名称は違いますし、実際の職場ではもっと細分化されています。あくまでも、大体そんな感じだろうな、と思ってください。

企業といっても様々な業種があるので、**製造業**を例にしてみましょう。製造業だと、だいたいこんな職種に分かれます。

**開発:**新製品をつくる(開発・研究・技術)

**製造:**製品をつくる(製造・品質管理)

**営業:**自社の商品を売る(営業・広報・広告)

**総務:**会社の運営に関わる(人事・法務・経理・事務)

**経営:**企業を経営する(代表取締役・社長・役職)

◇**開発**は、**新製品の設計**をしたり、**材料を研究**したり、あるいは**デザイン**をつくったり、という部署です。おそらく**理系の大学**に進む人がイメージされるところがここになると思います。土台となる**専門知識**が生かされる職種ですが、ものによっては、今までになかったものを作ることもある(例えば、最初にスマートフォンを作った人を想像してみてください)ので、**クリエイティブ**も必要になるでしょう。

◇**製造**は、その通り**製品を製造**する部署です。ここでは開発部門から提供された設計・プラン通りに製品を作ったり、生産効率をあげたり、トラブルがないように業務を工夫することが求められます。そのためにはルーチンワークをこなし続けるといった力が必要です(遅刻なんかもってのほかです)。部品の取り付け作業といった分野は、高卒生の就職先として一般的ですが、例えば**プログラマー**も職種で言えば製造にあたると言えます(ゲームクリエイター=開発/ゲームプログラマー=製造)。**システムエンジニア**などは、開発と製造の中間ぐらいになりますね。

◇**営業**は、自社の**商品を売る**職種です。厳密には**営業**と**広報**と**広告**は違う職種ですが、詳細については省略します。さて、開発・製造がどんなに良い商品を作ったとしても、消費者が買いたいと思えば、買って欲なければ企業は成り立ちません。したがって、**営業は企業の収益に直結する重要な職種**です。営業の担当は、顧客のニーズをキャッチしたり、製品のプレゼンテーションをすることが必要で、文系的なコミュニケーション力が必要になります。なお、広

告については、マスメディアの役割が非常に大きいため、**広告代理店**に任せることが多くなりがちです。具体的に名前はあげませんが、日本には2大広告代理店があり、かなり力が大きいことで知られています。ちなみに、ちょっと余談ですが、商品の力以上に営業の力で売り上げを伸ばすような会社は「営業の会社」と言われがちで…ゴホゴホ。◇総務の中に**経理**も入れましたが、実際にはちょっと違う職種です。こちらも詳細は省略します。いずれにせよ、総務・経理は**バックオフィス**と呼ばれ、社外からは見えませんが、社員の採用や配置、資材の管理、法的な問題（例えば**製品の特許**について）の処理など、企業の骨組みを担う大切な職種です。ちなみに、生徒の立場では意識していないと思いますが、**学校のバックオフィスは事務室**です。事務室の方々が、学校の骨組みを支えてくれているんですね。その総務・経理も主に文系のイメージが大きいです。**法学部・経済学部**はもちろん、「君、**教育学部**卒で教員免許持っているみたいだから、新入社員の教育係ね」と、安直に人事担当にさせられる人もいたりします（全然違うのに）。製造業では、直接製品に関わることは少ないですが、企業にとって重要な役割であることはわかんと思います。

◇**経営**は、会社全体の動きを考える部署です。新製品をいつ発売するか、開発費はどれぐらいか、社員の賃金をどうするか等、様々な決定をします。中小企業だとその会社を起業した人や、社内で様々な部署を経験しながら出世して経営者になる人が多いですが、大企業だと、**異業種から経営者になる人もいます**。具体的な人名はあげませんが、**三菱商事**から**ローソン**の社長になり、**サントリー**の社長になった人とか、日本の**アップル社**の社長から、**マクドナルド**の社長になり、**ベネッセ**の社長になった人とかが良く知られています。**経営学部・学科**では法的な手続きや財務に関することなどの経営分野を学べますが、実際の経営は、その業界の**専門性**や、世の中の動きをキャッチするセンス、あるいは社員のモチベーションを高めたり、リストラを断行する判断など、複合的な要素があるので、必ずしも経営学部・学科で学ばなければならない、というわけではありません。経営者になってから経営学を学ぶ人もいます。

とまあ、大雑把に分類してみましたが、どうでしょうか？同じ「〇〇〇」という会社の社員であったとしても、職種によって働き方は全く違うことがわかんと思います。そして、それぞれの職種に対して、人それぞれの**適性**があります。例えば、**開発や製造は、モノと向き合うことが得意な人**、**営業や経営は、ヒトと向き合うことが得意な人**に向いていると言えるでしょう。また、職種に**専門性**も関わってきます。開発・研究職は、専門性が高いですし、営業職などは、専門性よりも、臨機応変さが求められるでしょう。そういった、自分の**適性／向き・不向き**を把握しておくことで、職種のミスマッチを防ぐことができます。職業の適性は、賃金以上に重要な要素ですよ。

今回は、主に製造業を題材として職種について考えてみましたが、製造業以外の企業、例えば**商社・金融・出版・販売・宿泊・運輸**なども、**企業名ではなく、その中の職種**という視点で見ると、違った側面が見えると思います。

また、企業人だけでなく、**医療系（医師・看護師）**や、**法曹（裁判官・弁護士）**といった**高度な専門職**や、ほかにもいろいろな**職種（通訳とか、コンサルタントとか、アーティストとか、もちろん教員も独特な職種ですね）**があります。

そして、さらに職種ごとの**賃金・待遇（あと、一般職と総合職）**や、**転職の可能性**、**今後AIに置き換えられそうな職種**など、いろいろな要素が絡みあうのですが、話題が広がりすぎてしまうので、今回はここまでしておきます。

さて、ここまでの話とは変わりますが、いざ就職について考えるときに、以下のことを心に留めておいてほしいです。それは、企業、特に大きい企業であればあるほど、**求めている人材は「今できる」ことよりも、「今までやったことがないことができる」ことの方が重要視される**ということです（特に文系。理系は研究内容が活かされることもありますね）。というのは、ここまで書いたような職種の内容は、高校時代・大学時代を通じて、ほとんどの人はやったことがありません。例えば「冷蔵庫用の新しい触媒の開発」とか、「自動車のスタッドレスタイヤの営業活動」とか、経験したことのある新卒はまずいません。でも、入社したらやるしかありません。つまり、企業はその「**やったことがなくてもできるかもしれない**」あなたの将来に期待して採用するし、あなたもいざ採用されたら、「**やったことないこと**」をして賃金をいただくことになります。その点では**大学の学部・学科が職業に直結するわけではない**ということです。

そこで、学生時代にやっておいてほしいことは、**全力で「やったことがないことをする」という経験**です（部活も含めて）。その経験が多ければ多いほど、「**やったことがないことができる**」可能性は広がります。受験に引き付けてみると、**高校生は「大学受験をやったことがない」**ですね。この「**やったことがない**」**大学受験を全力でやってみる経験**は、将来にとって大事な糧になると思います（いい大学が就職に有利だと言われるのは、この点にあると思っています）。

年末年始は、社会人の親戚や先輩と会う機会があるかもしれません。親しい人であれば、不躰にならない程度に、どんな職種でどんな働き方をしているのかを参考に聞いてみるのも面白いかもしれませんね。